

令和6年8月16日

子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について

# 第5回川西市立学校のあり方審議会 資料

# 各議論内容の論点整理

# 論点整理をする内容

①川西市の学校施設について

②望ましい学校規模について

③望ましい学級規模について

④小・中学校の通学距離・通学時間について

⑤より良い教育環境(学校規模)を実現するための施策について

⑥特色のある教育について

⑦学校と地域の関係について

# ①川西市の学校施設について

# 川西市の学校施設について

## 【学校施設について】

- ① 全国的な問題として、公共施設の老朽化対策、人口減少に伴う公共施設の集約化も避けられない。
- ② 大規模改修は老朽化が進めば進むほど、マイナスをゼロにもどす改修になる。しかし、集約化や減築を伴う大規模改修をする際に、今後の教育施設に必要な機能や役割を考えて改修をすれば、学校施設に大きなプラスの機能を持たせることができる。
- ③ 今後、大規模改修する際には、新しい教育に合わせた校舎になるように検討していく必要がある。ICT教育や、インクルーシブ教育の観点など、多様な学びに対応できるように、教室や校舎の環境を変化させていくことも必要。

## ②望ましい学校規模について

# 望ましい学校規模について

## 【学校規模に関する基本的な考え方】

- ① 小規模校、大規模校ともに、良さや懸念事項がある。
- ② 各学校の学校規模が適正か不適正かといった話ではなく、どの規模感の学校が学校運営を実施しやすいか、学校規模の標準、基準という意味で捉える。
- ③ 学校の規模によって、教育の質が決まるものではないが、ある程度の規模があった方が、学校の工夫の幅を広げることができる。

# 望ましい学校規模について

## 小規模校の良さ

- ①子どもたちの人間関係が良好な場合、安定した環境で過ごすことができる。
- ②学校行事などで、個別の活動や活躍の機会を設定しやすい。
- ③児童相互の人間関係が深まりやすい。
- ④学校行事等で個に応じた関わりや表現などが工夫できる。
- ⑤教職員が全校生を把握でき、児童と教職員の関係性が築きやすい。

## 小規模校の懸念事項

- ①固定化された人間関係となり、考えの広がりが少ないことや、トラブル時に環境を変えることができない。(単学級)
- ②少人数のため、多様な考え方や関わりが確保できず、切磋琢磨する機会が少ない。
- ③全体の教職員数が少ないため、教職員一人に対する校務分掌の負担が大きい。
- ④担任一人で学年すべてのことをする必要があり、負担が大きい。(単学級)
- ⑤3学級以下になると、免許外の教科を担当する必要が生じる。(中学校)



# 望ましい学校規模について

## 大規模校の良さ

- ①多様な考えに触れることができる。
- ②現在の人間関係で解決できないことに直面した時も、選択肢が広がりやすい。
- ③多くの出会いがあり、コミュニケーション能力を高めることができる機会が多い。
- ④数多い教員の視点で子どもを見ることができ、意見や考えを出し合いながら運営できる。
- ⑤定数に基づき、配置される教員数が確保できるため、負担が適度に分担される。

## 大規模校の懸念事項

- ①全体場で自分を表現する機会や、行事などで活躍する場面が少なくなる。
- ②子ども同士の学年全員との関わりは希薄になる。
- ③教師一人が学年全員との関わりが薄くなり、学年全体の把握が難しい。
- ④学校施設の利用が制限される。
- ⑤教職員数が多くなりすぎると、教職員同士の連携が図りづらくなる。

# 望ましい学校規模について

## 【学校規模】

### (1) 望ましい学校規模

小学校 各学年2～3学級(学校全体12～18学級)

中学校 各学年4～6学級(学校全体12～18学級)

### (2) 学校再編を検討する基準について

- ①大規模校に関しては、今後、児童生徒数は減少していき、望ましい学校規模に近付くことが予測されるため、学校再編は検討せず、学校運営の状況を確認していく。
- ②小規模校に関しては、今後も小規模化が進むと予測される。特に単学級は、子ども・教職員にとって課題が大きいことから、継続的に単学級の学年となった場合は、教育委員会が地域や保護者との情報共有の場を持つ。そのうえで、より良い教育環境をめざし、統合を含めて話し合いを進めていく。

### ③望ましい学級規模について

# 望ましい学級規模について

## 【学級規模】

### (1) 望ましい学級規模

20～30人程度が望ましいが、国や県の基準を変更することは持続可能でないため、国の基準に準ずることを基本とする。

【小学校 35人 中学校 40人】

- ①個別の学習支援を考えると、少人数の方が手厚く支援できる。
- ②一方、体育など集団が必要な教科の活動、グループワークや多様な意見や考え方に触れる機会を担保するためには、20人程度の人数は必要である。
- ③市独自で学級規模を変更することは、教職員・教室・財源の確保が必要となるため、持続可能性の観点から、課題が大きい。

## ④小・中学校の通学距離・通学時間 について

# 小・中学校の通学距離・通学時間について

## 【通学距離・通学時間について】

### (1) 通学距離・通学時間の基準

	通学距離	通学時間
小学校	おおむね4km以内	おおむね1時間以内
中学校	おおむね6km以内	おおむね1時間以内

※基準は持ちながらも、通学が子ども達の過度な負担にならないような配慮を検討すること。

- ① 学校規模と通学距離は両立できない関係性のため、併せて検討する必要がある。  
※ 学校規模を確保しようとするすると通学距離が延び、通学距離を確保しようとする  
と学校規模が小さくなる。
- ② 子どもの安全面に配慮して、通学距離や通学時間を検討すること。

⑤より良い教育環境(学校規模)を実現するための施策について

# より良い教育環境(学校規模)を実現するための施策について

## 【施策とそれに対する審議会の意見】

### ①校区の変更

⇒地域と学校とのつながりが強く、大幅な校区変更は望ましくないため、コミュニティ圏域への影響を与えない範囲で調整を行う必要がある。

### ②学校選択制の導入

⇒学校の安定的な運営と、地域と学校との関係に配慮することが重要であるため、自由校区制度は導入しない。ただし、通学距離などへの配慮から、隣接校区選択希望制度として運用。

※小規模特認校は、小規模の特色を生かした教育をする学校であり、小規模化を解消するためのものではない。川西市としては、学びの多様化学校を検討。

### ③学校間交流及び合同学習(オンラインを活用した教育)

⇒対面で友達や教師と関わる学校生活は子どもの成長にとって重要であるが、学びの機会を補完する新たなツールとして、オンラインを積極的に活用する。

### ④小中一貫教育の導入

⇒児童生徒にとって学びの選択肢が増え、メリットが大きいため、小中一貫教育を推進していく。

### ⑤学校(同校種間)の統合

⇒子どもの学びを保障するために必要に応じて検討を進める。



## ⑥特色のある教育について

# 小中一貫教育について

## 【小中一貫教育】

- ① 小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間一貫した系統的な教育課程を編成することができる。指導内容の入替えを行い、中学校で学ぶ内容を小学校で先行して学ぶことや、異校種の教員による乗り入れ授業を実施し、より専門性の高い教員が指導するなど、学校独自に特色のあるカリキュラムを編成することができる。
- ② 小学校1年生から中学校3年生が一緒に過ごすため、子どもの育ちのモデルができる。小学生が中学生に憧れを持ち、将来の自分像をイメージすることができ、逆に中学生は、小学校低学年と関わることで、幼い子どもに思いやりを持つ機会が増え、成長につながる。

# オンライン教育について

## 【オンライン教育】

授業で他校との交流や、学校に来ることができない児童生徒に対しての授業のサポートなど、現在の教育に追加的な使い道ができないか考えることが大事なポイント。現在の教育を完全にオンラインに変更させることは難しいため、学びの機会を補完することができる新たなツールの一つとして検討する。

- ①教科や単元によっては、他校と交流して取り組むことで、学びを深めることができ、有効である。
- ②欠席児童生徒や校内サポートルームに登校している児童生徒に対してオンラインを利用して教室とつなぎ、授業配信をすることで、学びの機会を補完することができる。
- ③実技・演習が伴う授業や、友達とのコミュニケーションなど、教職員や友達との日常生活の関わりや経験はオンラインでは学ぶことはできない。

## ⑦学校と地域の関係について

# 学校と地域の関係について

## 【学校と地域の関係】

- ① 川西市は令和6年度より全学校園で学校運営協議会を導入している。学校は様々な場面で、地域の方の協力を得ながら学校運営を実施している。
- ② 学校規模を考える観点には、「子どもの学びの場」という機能を第一に検討していく。
- ③ 学校は、「子どもの学びの場」としての機能と同時に、地域にとって、防災、交流の場など、様々な機能を併せ持っているため、学校が果たしている役割について地域住民とともに整理する必要がある。
- ④ 学校再編を検討する際には、地域の方と丁寧に話し合いを進めていく必要がある。その際、市長部局とも連携し、学校の機能について検討していく必要がある。